

下関市汚水処理施設整備構想(案)に係るパブリックコメントの実施結果

1. 実施期間 令和5年5月16日(火)から令和5年6月15日(木)

2. 意見提出状況 提出者数 4名 意見件数 10件

3. 意見の要旨と市の考え等

【反映区分】

A:意見を踏まえて施策を補足修正、または追加した	0件
B:軽微な文言修正を行った	0件
C:施策の補足修正、追加を行わなかった	8件
D:施策実施にあたって考慮すべき事柄として参考とした	0件
E:パブリックコメントの対象外の意見として扱った	1件
F:公表しない意見	1件

番号	ページ	意見の要旨	本市の考え方	反映結果
1	1.1 汚水処理施設整備構想とは	地域特性等を考慮し適正な整備手法を選定するための基本方針を示すものです。とありますがここに環境問題、人口減少問題、下水道料金問題等課題は多くありますが、何故取り組まないのでしょうか。	<p>汚水処理施設整備構想とは、各種汚水処理施設(集合処理である公共下水道や集落排水など、個別処理である合併浄化槽)の特性を踏まえ、地域特性等を考慮し適正な整備手法を選定するための基本方針を示すものであり、経営方針を示すものではありません。なお、人口減少問題、下水道使用料の課題については、これらを考慮した結果として、本案をお示ししております。</p> <p>各汚水処理施設の個別計画については「下関市下水道事業経営戦略」や「生活排水処理基本計画」等で定めております。</p>	C

2	3.2 見直しにあたっての基本的な考え方	<p>持続的な汚水処理システムを構築するに当たってとありますが、ここに忘れてはならないのは市民にとって最も関心の高い下水道料金の問題はどうなるのか、次に環境問題に取り組む計画などについてどのような計画を持っているのかについて現状を示して頂きたい。</p>	<p>汚水処理施設整備構想とは、各種汚水処理施設（集合処理である公共下水道や集落排水など、個別処理である合併浄化槽）の特性を踏まえ、地域特性等を考慮し適正な整備手法を選定するための基本方針を示すものであります。汚水処理施設の整備は、快適な生活環境や良好な水環境（公共用水域の水質保全）の向上を目的とするものであり環境問題を踏まえたものとなっております。また、下水道使用料については、本案でお示した計画区域の縮小により、一層のコスト縮減に努めることとしております。</p>	C
3	3.6 検討結果	<p>市民の最も関心の高い下水道料金問題は今後下がる傾向を求めています、もし上がるとすればそれを負担する理由と根拠に整合性があるのかについて。</p>	<p>汚水処理施設整備構想とは、各種汚水処理施設（集合処理である公共下水道や集落排水など、個別処理である合併浄化槽）の特性を踏まえ、地域特性等を考慮し適正な整備手法を選定するための基本方針を示すものであり、個別具体的な施策について記載するものではありません。なお、汚水処理にかかる費用負担は、「雨水公費・汚水私費の原則」※1に基づき、使用されたお客さまにご負担いただいています。昨今の電気代や資材価格の高騰などにより経営環境は厳しさを増していますが、今後も、一層のコスト縮減に努めてまいります。</p>	C

4	3.6 検討結果	<p>人口減少及び不明水の増加に対応する負荷の変動が市民の負担になるとすれば、その理由と根拠について。</p>	<p>汚水処理施設整備構想とは、各種汚水処理施設（集合処理である公共下水道や集落排水など、個別処理である合併浄化槽）の特性を踏まえ、地域特性等を考慮し適正な整備手法を選定するための基本方針を示すものであり、個別具体的な施策について記載するものではありません。</p> <p>汚水処理にかかる費用負担は、「雨水公費・汚水私費の原則」※1に基づき、使用されたお客さまにご負担いただいています。ご指摘のとおり不明水の増大は、汚水処理費の増につながりますので、今後も引き続き不明水の抑制に取り組み、一層のコスト縮減に努めてまいります。</p>	C
5	3.6 検討結果	<p>脱水ケーキ等の汚泥を焼却処分することは、環境対策に貢献できないことが分かっていますが、汚泥のリサイクルセメント化は貢献していると確認できていますか。（汚泥のガラス化は非常に少ない）</p>	<p>汚水処理施設整備構想とは、各種汚水処理施設（集合処理である公共下水道や集落排水など、個別処理である合併浄化槽）の特性を踏まえ、地域特性等を考慮し適正な整備手法を選定するための基本方針を示すものであり、個別具体的な施策について記載するものではありません。</p> <p>コスト縮減の観点から下水道汚泥をセメント原料として有効利用していますが、セメント製造過程において化石燃料を使用していることは承知しております。</p> <p>ご指摘の課題等については、国土交通省において、「脱炭素・循環型社会の形成」の施策を展開しており、今後の下水道汚泥利用の方向性が示されていますので、本市もこの方向性に沿って取り組んでまいります。</p>	C

6	3.6 検討結果	<p>今後の課題として、老朽化した施設や埋設函渠の負荷変動、並びに環境問題等に対応する技術開発の取り組みが求められています。これらの情報を収集し且つ検討されていますか。</p>	<p>汚水処理施設整備構想とは、各種汚水処理施設(集合処理である公共下水道や集落排水など、個別処理である合併浄化槽)の特性を踏まえ、地域特性等を考慮し適正な整備手法を選定するための基本方針を示すものであり、個別具体的な施策について記載するものではありません。</p> <p>ご指摘の課題等につきましては、国土交通省において、「安全・安心な暮らしの確保」や「脱炭素・循環型社会の形成」等様々な施策や先進事例を発信しており、今後もこれらの情報収集に努め、その動向を注視してまいります。</p>	C
7	3.6 検討結果	<p>(1)人口減少地区については、縮小についていかにソフトライディングできるか地域において(例えばまちづくり協議会又は自治会)十分意見のすり合わせを行うべきである。</p>	<p>本案でお示ししている、公共下水道の計画区域の縮小については、今後整備する予定の区域のことであり、現在、公共下水道が整備されているものを縮小するものではありません。なお、これらの地域は、個別処理である合併処理浄化槽により汚水処理することとなります。パブリックコメントの実施により、汚水処理施設整備構想に関する住民意向の把握に努めて参りましたが、今後も必要に応じ地域との意見調整を行ってまいります。</p>	C

8	3.6 検討結果	(2)コンパクトシティ導入地区について将来イメージとして整備構想の検討を開始すべきである。	本市では、ご指摘のコンパクトシティ導入地区を特に定められていないことから、本案においては、コンパクトシティの視点での検討は行っておりません。 コンパクトシティについては、「下関市立地適正化計画」等を踏まえ、汚水処理施設の整備のみではなく、都市機能全体の中で検討が必要と考えております。なお、本案は、将来の人口減少を踏まえて策定しておりますので、下関市立地適正化計画にて考慮されている今後の人口減少に関しては、本案においても反映したものとなっております。	C
9	—	汚泥の堆肥化を検討してほしい。 物価高騰、ウクライナ戦争が要因となり堆肥価格が通常の10倍ほど値上がりし、生活が困難になっております。処理水などを活用するなど、是非市民生活を応援していただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。	当該意見につきましては、匿名であることから、下関市パブリックコメント実施要綱第7条第4項の規定に基づき、市の意見を付する対象でない意見として取り扱います。	E
10	—	公表しない意見 1件	当該意見につきましては、内容が判読困難であったため、公表しないことといたします。	F

※1「雨水公費・汚水私費の原則」

雨水は自然現象に起因し、排除による受益が広く及ぶことから公費により負担が原則。一方で汚水は、原因者や受益者が明らかなことから、私費(使用料)により負担が原則となっています(国土交通省資料より抜粋)。